



奥山 智さん (課長在籍期間 昭和47年～56年)



現在の女性版は、昭和49年に「奥さま版」として誕生しました。市民、それも女性目線で社会や生活について考える企画があってもいいのではと、編集会議で話が持ち上がり、形になりました。

当時の広報やちよは、現在の広報紙より小さいA4サイズで、モノクロ印刷のもの。夜中まで印刷に立ち合うこともありました。

奥さま版が始まった頃の編集委員

は、消費生活モニター3人、広報モニター2人の5人構成。消費生活を考えるために消費生活モニターを選んで、食品などの商品を調べることから始まりました。当時は、オイルショックで物価が高騰したり、商品の質や安全性などが注目され始めた頃。マスコミよりも早く、市民に食品の選び方や、バーゲン情報、スーパーの売り出し日などの特集を組んで、市の広報に載せていました。

この頃の八千代市

オイルショックが起きるなど、普段の消費生活を見直す機運が高まっていました。

市制施行 10周年 (昭和52年)



高津団地、米本団地といった公営団地への入居開始(昭和45年～46年)

住民登録人口 10万人を突破 (昭和48年)



市民会館が完成 (昭和48年)

当時の奥さま版



昭和49年11月15日号 No.1 「消費について考える」

奥さま版第1号。気を付けた方がいい商法や、良い食品の選び方など、生活と密接に関わる「消費」についてまとめた特集になっています。

昭和53年11月1日号 No. 11

「お母さん、病気やお出かけのとき、お子さんをどうしていますか」



お母さんが病気などになったとき、近くに親類がいない場合、家事や育児をどのようにしているのでしょうか。実際に市内のお宅を訪ね、お母さんにお話を伺いました。

市制施行50周年記念

「広報やちよ奥さま版」振り返って



昭和55年12月1日号 No.17

「食品添加物を考えようインスタント食品と清涼飲料水」

便利、安い、腐らない、美しいといった理由で、安易にインスタント食品を飲食していないでしょうか。即席中華麺と清涼飲料水を取り上げ、食品添加物の問題点と対策を考えてみました。

親子橋(新川大橋、なかよし橋) 開通(昭和59年)



土屋 吉弘さん (課長在籍期間 昭和59年～平成6年)



当時の奥さま版では、時代背景もあり、「食品の添加物への興味」や「冷凍食品の品質についての考察」、「食の安全と健康」について考えるようなテーマが取り上げられました。また、健康診断で判明する病気や結果の見方、ホームドクターなどもテーマになっていました。

当時はコンビニなどがほとんどなかったようですが、自動販売機がいくつもまとまって置いてある場所に暴走族

が集まり、周囲の人たちから苦情が出ていました。暴走族になるような青少年が何を考え、なぜ集まって走りたがるのかをテーマに取材したことが印象に残っているそうです。

奥さま版が米本空襲を特集したことがきっかけで、昭和62年には、「市民の戦争体験記録集・あの日から」を発行。日本で初めて自治体が本を発行したと話題となり、テレビ局が取材に来ました。

この頃の八千代市

昭和から平成へ。事業の民営化が進み、バブル景気の盛衰がありました。

住民登録人口 15万人を突破 (平成3年)



アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携(平成4年)

昭和61年 「八千代」

34 米本空襲 八千代

250キロ爆弾